



- 1 躍進の雨漏り調査・補修作業
- 2 **羅針盤** 「躍進の顔」と言える社員
- 4 躍進が考える木材と日本文化 ②
- 6 調査の確かさは折り紙付き
- 8 適正価格を考える

躍進の雨漏り調査・補修作業



上の写真は、躍進の真骨頂ともいえる雨漏り調査・補修作業の現場を写したものです。お隣との隙間が狭く、足場が立てられないので、屋上からのロープによる、いわゆる「ブランコマン」の出動となったのです。

本誌 6 ページでもご案内しております「赤外線漏水調査システム」との併用で、確実な雨漏り調査と完璧な補修を実施しております。少しでも壁や天井にシミを発見したら、迷うことなく躍進までご連絡ください。お待ちしております！

「躍進の顔」と言える社員**お客様の前に出せるのは教育が来ている社員だけ**

企業トップたるもの、十分に教育が出来ていない社員を現場に出すことは、その社員を捨てているのと同じです。なぜならミスすることが事前に分かるからです。だから私は社員研修にお金を惜しんだことはありません。

もちろん社員教育といっても、座学もあれば OJT もあります。しかし一番重要なのは、真摯であることを教えることです。真摯とは表面上真面目に振る舞うことではありません。

そしてそれは間違いなく、言動、振る舞い、その人の仕事ぶりに現れます。同時にそこには心が見えます。誰も見ていなくても、例え無人島で1人になっても決して手抜きをしたりしない心底真面目な心情です。

その前にはまず、虚栄心と嫉妬心を取り除くことから始めましょう。虚栄心は、自分を必要以上に優秀に見せるため、余計なことをやって、「過ぎたるは猶及ばざるが如し」の結果を招くのです。

美食家としても名高い芸術家の北大路魯山人(きたおおじろさんじん)は、「料理人が自分の腕を見せつけようとしている料理ほど不味いものはない」と述べています。要するに自分を優れた人間に見せたがる者ほど、肝心の内容(味)に目が行っておらず、酷い場合はミスを隠ぺいするからです。

そして嫉妬心ですが、これは軽度の嫉妬心であれば、「あいつよりも優秀になってやる」という良い意味でのライバル心になり、むしろお互いを成長させる重要な要素です。

問題は過度の嫉妬心です。これは間違いなく競争相手の足を引っ張るような妨害工作を行います。それをなくすには、公平な判断を元に配置換えをするしかありません。しかし人手不足の折りに簡単には実行できないので、常日頃から細かく公正に評価を繰り返し「嫉妬してもムダ」という事実をあきらかにしておくべきです。

そうして磨き上げた人物にしてはじめてお客様の前に出せるのです。躍進では、正しく公平な評価をしていることが実践での教育になり、まさに「躍進の顔」として相応しい立ち居振る舞いをしています。それがリピーターを生む最大の要素なのです。

「お客様が分かる言葉」で話す

よく「若い人は何を考えているのか分からない」とこぼす中高年の方々がいらっしゃいますが、自分自身が若い人の感覚に立ち返り、若い人が分かる言葉で話せば良いのです。もちろん今流行りの「若者言葉」を使えと言っているのではありません。難しいことを簡単に説明せよと言っているのです。

そしてこれは当然ながら、お客様に対しても言えることです。さらに BtoB のお客様なら玄人、BtoC のお客様なら素人で、当然ながら使う言葉も違います。仮に玄人相手でも、専門用語をさらにかみ砕いて説明しなければなりません。

素人のエンドユーザー様相手ならなおさらです。以前にもお話ししましたが、経営学者ドラッカー氏の言葉にも「大工と話をするときは大工の言葉で話せ」があります。つまり素人のエンドユーザー様には「伝える」ではなく確実に「伝わる」ことを実行するため、専門用語を平易な日本語に変換する語彙力を身につけてほしいのです。

無心にお客様のことだけを思う

無心という言葉には様々な意味があります。仏語に限って言えば、一切の妄念（もうねん）を離れた心です。妄念とは迷いの心であり、誤った思いから生じる執念です。物事に囚われている有心（うしん）の対極語なのです。

つまり、余計なことを一切考えず、お客様のことだけを思えるかどうかなのです。もちろん利益を上げることも重要なので、「お客様。このご予算だとこの範囲までになります」と告げ、了解を得たらもう他のことは一切考えず、文字通り無心で最高の商品・サービスを提供しましょう。

目の前の仕事に対する迷いを払拭し、会社を「自己を磨く人生道場」とすれば、剣豪・宮本武蔵が言った鍛錬の意味、「千日（せんじつ）の稽古をもって 鍛（たん）となし、万日（まんじつ）の稽古をもって 錬（れん）となす」にも通じるのです。

そうして至誠一貫、堅忍力行（けんになりょっこう）の精神をもって戦い、目的を必ず達成させる社員こそ、まさに「躍進の顔」と言える社員と言っても過言ではありません。そして前述のように、現在は全員が「躍進の顔」と言える社員となっております。

躍進が考える 木材と日本文化 ②



50年周期で建て替えることの合理性

小学生でも知っていることですが、樹木は二酸化炭素を吸収して酸素を吐き出してくれるため、人間だけでなく多くの生き物にとってなくてはならない存在です。そんな樹木にも、人間が手を加えて保護することで、共生と有効活用が成立するのです。

当たり前の話ですが、木材も歳を取ります。そして老いた樹木の生命力は、若い樹木の生命力よりも弱くなるものです。その証拠に、樹木が活発に二酸化炭素と酸素を交換出来るのは50年がピークなのです。樹齢80年以上だとやはりお年寄りですから、それなりの量しか呼吸してくれません。

そのため計画的に植林を行い、50年周期で伐採することは最も効率よく二酸化炭素を酸素に替える方法なのです。それを後押しするのが国産材活用に伴う木造一戸建て住宅の建築促進です。

よく「日本の住宅は25年で建て替える。信じられない」と外国人は言っているのですが、25年は税法上の資産価値が無くなる期限で、住めないことはなく築50年以上の住宅に住んでいる人はたくさんいます。

しかしだからと言って、50年前に建てた住宅にそのまま住み続けるよりも、経済的な問題がクリアできれば、どんどん建て替えるべきなのです。前述の通り、若い苗木を植林し、二酸化炭素と酸素の循環を効率よく行うには、最も合理的なやり方だからです。

間伐材で商品価値を維持

一時期、いわゆる「マイ箸」を持ち歩き、「割箸の生産を押さえ樹木の伐採を止めることは自然保護につながる」という運動が流行したことを覚えています。しかしこれは、半分当たっていますが、半分はそうではないのです。

結論を言いますと、間伐材で作られた割箸を用いることは、自然保護に大いに役立っています。間伐材とは、樹木の成長に応じて、その間に生えている一部の樹木を間引くことで生まれる木材のことです。

なぜそのようなことをするかと言えば、樹木が成長し密集して過密となると、お互いの成長を阻害するからです。そうすると、住宅に用いるための木材の形が悪くなり、商品価値が生まれず、結局国産材市場も外材に乗っ取られてしまうのです。

そうならないように、国産材を保護・育成・活用する動きは各地で見られ、積極的に間伐を行っています。そこで生まれる間伐材で作られた割箸を用いることは、決して環境破壊ではありません。

しかし東南アジア諸国に出向き、無秩序に木を伐採して割箸を作るのは確かに環境破壊と言っても過言ではありませんが、日本の間伐材で作られた割箸を用いるのは良いことです。そして、「マイ箸」は持ち歩くべきではありません。なぜなら知らぬ間に雑菌が繁殖し食中毒の原因になり、場合によっては飲食店の管理責任が問われるからです。

埼玉県でも、県産材であるスギやヒノキの「西川材」の育成に力を入れ、間伐材活動を推進しております。それは自然保護、環境保護だけでなく、地産地消による木造住宅建築の活性化に一役買うからです。

木材ほど相性のよい素材はない

木材は体温を奪うことがないので、直に触れても体調を崩すことは滅多にありません。それだけでなく、目から受ける刺激にも決して悪影響を及ぼすことはないのです。

例えばログハウスのような木肌を丸出しにした部屋にいと、ちょっと緊張感を覚えませんが、血液検査を行っても、血中におけるストレス物質は良好なままなのです。そこで「木視率(もくしりつ)」という言葉があります。

これは部屋の中における木肌の割合を示すもので、平均的には上部を白いクロスや湿式の塗り壁にし、腰壁に現わしの木材を用いると良く、その割合は白6:木肌4が良いそうです。寝室は、もっと白の割合を上げた方が、ゆっくりお休みになれます。

このように、木材ほど人間にとって相性の良い素材はないのです。そんな木材を最も用いるのは木造住宅及びSRC造、RC造住宅の内装部分です。それは前述の通り、50年という周期で取り替えるのが、人間をとりまくすべてにとって最良であり、躍進はその最先端の木材保存技術と、『Air 鉋』技術でお守りしております。ぜひご利用ください。

調査の確かさは折り紙付き

これからまだまだ台風が訪れ、秋の長雨は続きます。そこで、梅雨入り前と同様に注目されているのが、雨漏り調査です。もし雨漏りの疑いがあるのなら、既に躍進の定番商品となっているサーモグラフィ法による『赤外線漏水調査システム』で、必ず調査を実施してください。

散水調査と水張り調査

雨漏りの調査には、一般的に、散水調査と水張り調査があります。散水調査とは、雨漏りが発生していると思われる箇所に、雨降りの時と同じ状態となるように水を撒き、意図的に雨漏りをさせ、原因を確認する方法です。また水張り調査とは、陸屋根の場合に、屋上に水を張って、その水の漏れを確認する調査方法です。

しかし、原因の特定は、熟練したプロですら難しいものです。原因が特定される保証が無いのです。すぐに漏水箇所を発見でき、簡単な処置によって修繕できるケースもあれば、調査を繰り返して、やっと発見できる場合もあります。

原因が特定できなければ、外壁、屋根、防水等の全体改修を実施しなければなりません。それではコストも時間も、かかりすぎてしまうのです。

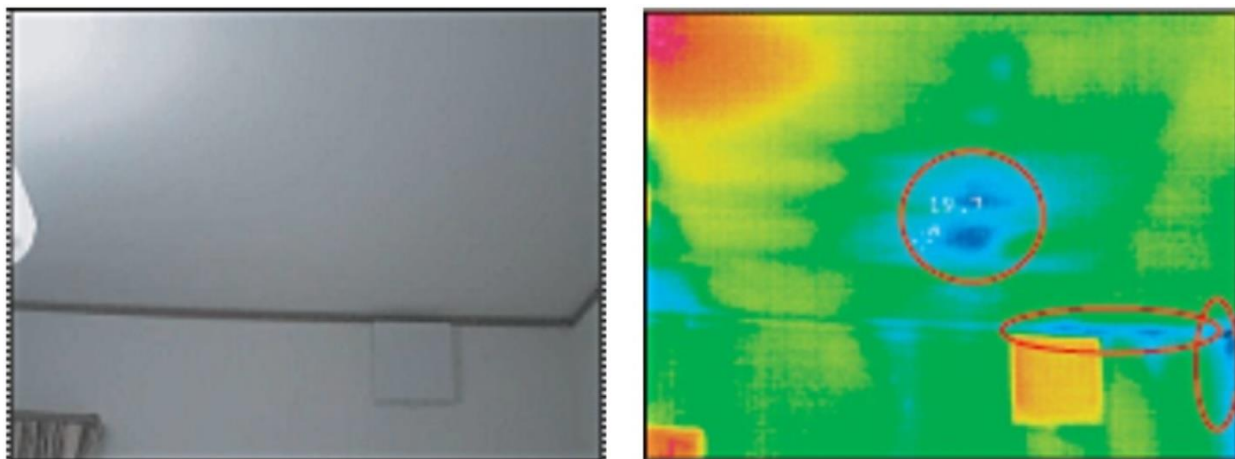
赤外線利用ならではの調査精度を確保する

専門の調査会社が、調査・補修をくりかえしていながらも、一向に雨漏り被害が改善されないという、そんな悩みを一気に解決したのが、サーモグラフィ法による『赤外線漏水調査システム』です。

赤外線は、温度を持つすべての物体から、その温度に応じた波長分布によって、自然に放射されます。その波長分布を、色画像として示し、様々な状態を分析する装置がサーモグラフィです。そのため、今まで発見できなかった雨漏りの侵入口も、明確に特定することができます。

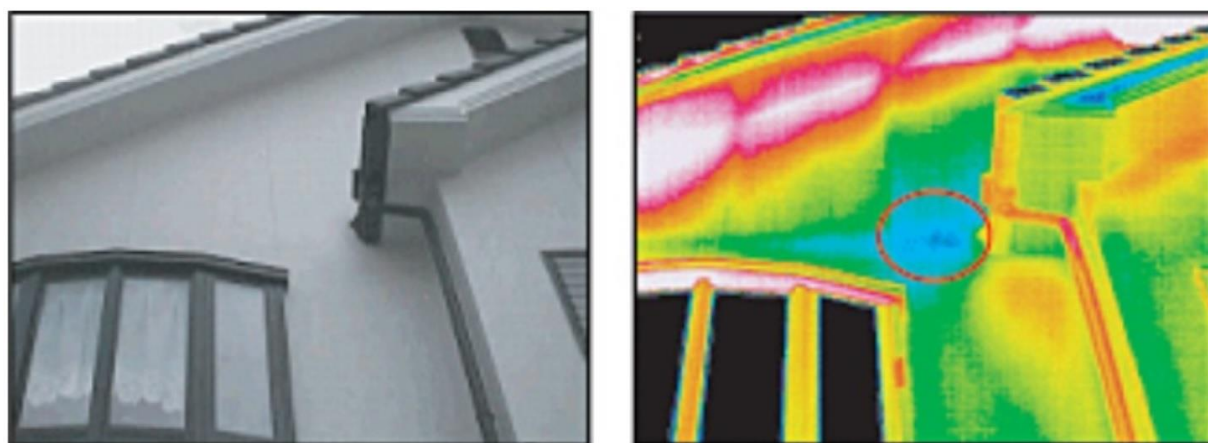
サーモグラフィの特徴は、広い面積を同時に捉えることができるため、モニター上に映し出される温度の相対比較を、ひと目で分析できます。

また、サーモグラフィは、対象物から離れて温度測定ができるため、動いているものや、近づくことができない危険なものでも、簡単に温度計測・分析することができます。



例えば、**上の2枚の写真**は、天井の一部と天井と壁の間が漏水している写真です。サーモグラフィ上では、部屋全体の温度は、緑色で表示されています。

そして、暖房などで室内が暖まると赤色に変化します。しかし、**漏水箇所は水色で表示される**のです。サーモグラフィ上では、丸で囲った部分には、水色を乗り越えて、濃い青色が示されており、ここが漏水箇所であることが分かります。



また、**上の2枚の写真**は、外壁に放水後、表面が乾いてから、サーモグラフィで計測したものです。下屋の雨どい脇に、赤外線画像では濃い青色が示され、その部分に水が蓄積していることが確認できるのです。

まさに、『赤外線漏水調査システム』は、熟練のプロの技を確かなものにする最高のアイテムといえます。

雨漏り調査・修繕にかかるコスト・時間を、合理的に縮小・短縮できるのが『赤外線漏水調査システム』です。まさに調査の確かさは折り紙付きで、確固たる定評のある雨漏り調査システムなのです。

ご依頼、お問い合わせは、躍進までお気軽に。ご連絡をお待ちしております。

適正価格を考える 住宅コラム

一般に住宅購入者の皆様は、住まいの素人であることが多く、工務店様やビルダー様にお聞きすると、一番説明にご納得いただくためにお時間を要するのは、奥様の方であるとおっしゃっています。

その根本は、適正価格をあまりご存じない方が多いからです。奥様が住宅購入で一番関心が高いのは収納と動線であって、これは今も昔も変わりません。しかし奥様には、「上物が2000万円であれば2000万円の性能しか確保できない」という至極当たり前のことをご理解いただけないケースが散見するといえます。

特に、耐震等級は3であることが当たり前で、制振装置や免振装置が標準仕様として備わっていると思われている方が多く、「その性能を確保するには〇〇万円のご予算になってしまいます」というと、「そんなの住宅のプロなんだから、別料金を払わなくても出来て当たり前でしょう」と、クレーム気味にお尋ねになられる方がいらっしゃいます。

これに関連して、リフォームに関する意識調査を行っている会社の調査結果によれば、回答者の70%が「費用の相場が分からない」というものでした(期間は2024年5月10日～同5月21日、回答者数は約2000人。インターネットによってリフォーム経験のある30代以上の男女を対象に実施)。

特に目立ったのは、「1社しか見積もりを取らなかった」というもので、これではその会社の価格・スペックがすべての判断基準になってしまいます。やはり相見積もりをとり、「なぜこんなに価格差が生じるのか」を徹底的に知る必要性があります。

それ以前に、工務店様やビルダー様が先回りして、ネット上であまりにも低価格を謳っている業者は非常に危険であることを注意喚起すべきです。なぜなら住宅ほど適正価格が決まっている商品はないからです。

前述の通り、住宅のプロならば実際に十分可能な施工でも、それに見合ったご予算を確保いただくことが大前提だということをご理解いただけてください。どんなジャンルのプロでも魔法使いではないので、2000万円の予算の住宅に5000万円の住宅性能を確保することは不可能であることからプレゼンを進めるように心がけてください。

<p>株式会社 躍進</p> <p>本社 〒337-0043 埼玉県さいたま市見沼区中川106-1 ☎048-688-3388 ☎048-680-7615</p> <p>東京 〒107-0062 東京都港区南青山2-2-8 DFビル2F 営業所 ☎03-6804-2541 ☎03-6804-2542</p> <p>URL=http://www.yakushin.jp E-mail=yakushin-no1@nifty.com</p>	<p>関連会社 不動産事業 株式会社 ヤクシンジャパン</p> <p>関連会社 株式会社 First Arrows ファーストアローズ</p>	<p>事業内容</p> <p>防水工事：FRP、ウレタン、塩ビシート、ゴムシート、アスファルトシーリング、注入、ピンニング、シングル葺き</p> <p>木材保存工事：床下点検、シロアリ駆除及び予防、調湿剤、床下換気等</p> <p>塗装工事：各種塗装</p> <p>外部点検：屋根、陸屋根、バルコニー、外壁等診断</p>
---	---	--